



令和4年6月3日
海上保安庁

SAPPHIRE22

日米連携によるフィリピン沿岸警備隊に対する能力向上支援 ～FOIPの実現に向けた日米共同取組「SAPPHIRE(サファイア)22」を 推進します！～

海上保安庁は、6月12日(日)から25日(土)までの間、外国海上保安機関に対する海上保安能力向上支援の専従部門「海上保安庁モバイルコーポレーションチーム(MCT)」4名をJICAの枠組みでフィリピンに派遣し、米国沿岸警備隊(USCG)と連携した能力向上支援を実施します。

今回の支援は、5月18日、USCGとの協力覚書付属文書の署名後、初めての日米連携による外国海上保安機関への能力向上支援となります。

- 1 今回 MCT は、日本が供与した2隻の97m級巡視船を用いての「えい航訓練」や「火災消火訓練」等を実施します。USCGはフィリピン沿岸警備隊に対して「小型船運航教官育成研修」を実施するほか日本の訓練にも参加する予定です。
- 2 海上法執行機関である海上保安庁及びUSCGは、1948年の海上保安庁創設期より深く交流しており、様々な機会を通じて、連携・協力関係の強化を図ってきました。両機関は、海上法執行機関として、海上警備等を行っているほか、インド太平洋地域の外国海上保安機関に対して海上法執行に必要な能力向上支援を行っております。
- 3 今回の支援は、本年5月18日に海上保安庁とUSCGとの間で署名した2010年の協力覚書の付属文書に基づく日米共同取組「SAPPHIRE(サファイア)」の一つとして、日米が連携して実施するものです。



過去のフィリピンにおける能力向上支援

画像左:えい航訓練

画像右:火災消火訓練

【その他】

新型コロナウイルス感染症の蔓延状況の変化などにより、派遣を中止する場合があります。